

いつ出るんですか。読者の方からのオーダーである。12月末に、私が教え子たちに呼ばれたクラス会のことを書いてほしいとのことだった。ずっと、書こうとは思ってはいた。だが、後回しになっていた。だいぶ時が経ってしまった。それではということで、書くことにした。

12月28日の土曜日のことだった。ということは、一般的には、前日の金曜日が仕事納めということになる。にもかかわらず、地元福島だけでなく、北は北海道の函館、茨城、東京からも参加してくれていた。ありがたかった。

20数年ほど前になるだろうか。一度、クラス会をやったことがあった。みんな就職し、社会で活躍し始めていた。その多くは、まだ結婚はしていなかった。たくさん集まっていた記憶がある。この会のことは、以前、「校長室だより～燐燐～」に書いたことがあった。

今回は、私の還暦祝いということだった。赤いちゃんちゃんこでも着せられるのかと思ったら、真っ赤なベストと真っ赤な帽子が出てきた。身にまとい、記念撮影をした。いただいたはいいが、果たして、いつ着るのか。恥ずかしくて着れそうもない。“薰風”の文字が入った記念品もいただいた。

このクラスを担任したときから、「学級通信～薰風～」はスタートした。製本をして、みんなに渡した。同僚や知り合いの先生にもあげた。おかげで、手元には1冊しか残っていない。前回の会のときに、この「薰風」を持ってきている教え子がいた。今回の会でも、また持ってきていた。中には、中学生の自分の子どもに「薰風」を読ませているという教え子もいた。

この教え子たちにとって、学級通信「薰風」は、よっぽど特別なものようである。あいさつの中で、今でも毎日のように文章を書いているが、ベースにあるのは、「薰風」であることを話した。参加者へのプレゼントということで、出来上がったばかりの『人生は、燐燐と 校長室だより10選』を一人一人に手渡した。この会に間に合うようにと、出版社に仕上げてもらった。

すると、予期していなかったことが始まった。サインがほしいというのである。なぜか、サインペンを持参している教え子がいた。さながらサイン会が始まってしまった。サインとは言っても、私の場合は、メッセージである。中学校に勤務して最初に担任した教え子へのメッセージである。卒業してから、もう30年以上が経つ。一人ひとりに向けてのメッセージをその場で書いた。本人が目の前にいる。ミスもできない。

ふと、“最初の教え子が最高の教え子です”というフレーズが出てきた。全員の分のサイン、いやメッセージを書くことはできなかった。書けなかった教え子の分は、後日、改めて書きたい。茨城にも行って書きたい。函館にもぜひ行って書きたい。全国に教え子がいるかと思うと、会いに行ってみたくなる。

この教え子たちのライングループがあり、私も追加してもらった。これからは、いつでも連絡がとれる。心強い限りである。この日、家に帰って、家人にいただいたものを披露した。そして、考えた。もしかしたら、自分は“果報者”なのではないか。いや果報者である。なぜだか、果報者という言葉が浮かんできた。あんなに未熟な担任だったので、出来すぎた教え子の皆さんである。感謝しかない。そして、素晴らしい出会いをずっと大切にしたい。